

第3回宮津地区将来構想策定検討委員会 会議録

日 時：令和2年11月24日（火）午後1時30分から午後3時15分

場 所：大矢野庁舎書庫棟2階会議室

出席者：村田委員長、花房委員、寺本委員、嶋元委員、西田委員（田中委員の代理）、静谷委員、村上委員（竹口委員の代理）、古谷委員、何川委員、福田委員、大瀬委員、関係課長、開発プロジェクト推進課職員（事務局）、受託者（株式会社環境デザイン機構）

欠席者：高橋委員、松本委員、林委員、水野委員、北岡委員、星野委員

1 開会（事務局）

2 委員長挨拶

村田委員長：本日は、お忙しい中、第3回宮津地区将来構想策定検討委員会に御出席いただき感謝申し上げます。

この会議も残すところあと2回となり、将来構想の策定に向けて大詰めの作業を迎えている。

本日は、将来構想（案）について等を議題としているので、委員の皆さまからは、前回に引き続き忌憚のない御意見を賜りたい。

3 議事

（1）（仮称）新大矢野図書館の整備概要について（原田社会教育課長）

原田課長：新大矢野図書館等の整備については、歴史資料などの展示スペースや交流スペースを併せ持つ施設の整備を進めているところ。

また、建設地の天草四郎公園は、高台の崩落が発生しているため、図書館の建設に併せ、崖地の保護及び公園の整備を同時に行い、市民の皆さまが安心して利用できるよう整備を行うこととしている。

進捗状況としては、9月末で基本設計が完了し、現在は、より詳細な実施設計を行っているところ。

配布した資料1の1枚目は、さんぱーる側からみたイメージ図となり、1階の左側の部分に開架スペースや学習スペース、こども図書講座等のスペースを設ける予定。

また、右側の1階部分に展示スペースや椅子・机等を配置し、飲食ができる交流スペース及び授乳室などを設けたエントランスを予定している。2階部分は、市の電子資料等の展示スペースとしており、デジタルコンテンツで上天草市の自然や歴史を体験型で学ぶスペースの他、研修室や収蔵室を予定しているところ。

展示による公開機能については、市の歴史や文化財、市にゆかりのある人物の展

示や個人等による企画展示を予定している。

また、研修室及び収蔵室については、例えば、教育活動等においても、小学校の研修場所としての活用や出前講座による市の歴史や文化、地元出身の人物などを楽しく学んでいただける施設として、活用いただければと思っている。

次のページは、上から見たイメージ図となる。施設右側に連絡路を設置し、天草四郎ミュージアム及び天草四郎公園の動線を確保することで、天草四郎公園の有効活用と天草四郎ミュージアムとの相乗効果を図ることとしている。

次のページは、図書館内のイメージ図となる。天井を高くし、自然光を取り入れた明るい図書館をイメージしているところ。一般図書の所蔵スペース及び閲覧スペースを併せた開架スペース、親子で楽しめる読書や読み聞かせスペース等を備えたこども図書コーナー、その他、歴史郷土資料コーナー、学習コーナー等を予定している。蔵書数については開架冊数3万5千冊、閉架冊数2万5千冊を合わせた6万冊を予定している。

分野別資料については、郷土資料や視覚障害者用資料の充実を図り、多様なニーズに応えられるようにしている。

今後のスケジュールについては、今年度中に樹木等の撤去及び造成工事等の着手を予定しており、令和3年度から建築工事に着手し、令和5年度にオープンを予定している。

嶋元委員：現在、天草四郎ミュージアムは有料であるが、新大矢野図書館に関しては、入館料などは無料とする予定か。

原田課長：図書館については、文化財法等の関係で有料にできない。
また、市内の他の図書館も無料で運営している。

嶋元委員：図書館の運営は、市の職員がやっていくのか。

原田課長：現在、市内の他の図書館については、直営で行っているところであり、他市における図書館の指定管理者の導入状況については、14市のうち、3市が指定管理者制度を導入している。

新しく整備する図書館を直営とするのか、指定管理者制度を導入するのかについては、それぞれメリット、デメリットを踏まえて検討していく。

福田委員：熊本市は、コロナの影響で、庁舎の建て替えを中止している。今後もコロナの影響で世の中が変化していく中で、もう一度、図書館の建替えを見直してみるのはいかがでしょうか。例えば、大矢野の上北小学校が廃校となっているが、そのような場所をリノベーションして、図書館として活用を考えるのも有りではないか。

原田課長：建替えの見直しについては、既存の大矢野森記念図書館が築40年以上経っており、雨漏りや老朽化等で図書を保管するのに適していない状況である。

また、合併特例債の期限が令和5年度までとなっているため、この合併特例債を有効活用する観点から見直し等は考えていない。

また、上北小については、現在、市の資料等を保管しているので、上北小を図書館として利用するのは難しいと考えている。

福田委員：天草四郎ミュージアムと図書館の資料室との住み分けはどのように考えているか。

原田課長：図書館の歴史資料室については、本市の歴史及びゆかりのある人物等の市全体に関する資料等を展示することとしており、天草四郎ミュージアムについては、天草四郎に関する特定の資料等の展示となっているため、住み分けは出来ていると考えている。

福田委員：図書館の駐車場台数に関して、約30台と伺っているが、市内の方だけでなく、市外の方も受け入れていくのであれば、駐車場が少ない印象を受ける。その点をクリアしないことには、積極的に市外の人達を呼べない。他に駐車場を用意したり、天草四郎ミュージアムの駐車場を案内するなど考えてみる必要があると思う。

また、先日、天草市の複合施設「こころす」に行ったが、市役所の課が2つ程入っており、土日でも職員が市民の方などの対応をされていて、とても良い印象を受けた。今度の新しい図書館では、どこかの課が入るといった計画はないのか。

原田課長：駐車場に関しては、天草四郎ミュージアムとの連携を図る予定。平日においては、利用者は少ないが、土日になれば結構多くなると思う。市外の方にも多く利用していただきたいと考えているため、駐車場の件については、持ち帰って検討させていただく。

また、施設に課を入れるのかに関しては、現在予定している図書館は、天草市の「こころす」と規模が違うため、課が入る予定はない。

大瀬委員：資料に記載されている図書館のイメージについて、現段階はあくまでイメージであり、デザインや色等の詳細な部分は、今後詰めていくということで良いか。

原田課長：現在、実施設計を行っているため、壁の色などの詳細は、実施設計の中で決定していくことになる。

大瀬委員：前回から、検討委員会でも課題としてあったが、景観に統一感が無いと感じており、それを改善するための取組み案として、デザインガイドラインが示されるので、デザインガイドラインの策定が間に合うのであれば、それに沿った設計を行い、景

観の統一感ができるような建物になればと思う。

原田課長：外観、デザイン、色等については、これから決めていくことになるので、景観の統一感と調査を図った建物となるよう検討を進めていきたい。

（２）土地利用の条件による将来構想の評価比較の集計結果について（事務局）

※資料２に基づき説明。

福田委員：現状、看板をつけること自体は、費用も少なく、すぐ出来ることと思うが、出来ることを実際にされているか。

事務局（光瀬）：観光案内のサイン等については、今後、関係課と民間の業者で連携してやっていく予定であり、将来構想の策定後、事業展開を行っていくということで御理解いただければと思う。

福田委員：前回、ベンチを配置することについて、他の委員からベンチは必要ないのではないかという発言があったが、私が東京に行った時に、ホームレスを排除するために公園からベンチが撤去されたことがあった。そうしたところ、一般の利用客がベンチを利用できなくなったという状況に陥ったため、各所にベンチやゆっくりできるスペースが必要と感じた。

また、丸ビルや駅ビルの中にソファを置くようになってから、客が来るようになったという事例もあることから、宮津地区も観光地なので、観光地らしい椅子や観光地らしい取組み等を考えていただければと思う。

嶋元委員：構想案で、建物等も示されているが、現状の土地の中だけで新しい建物を収めるとなると、だいぶ手狭のような印象を受ける。将来的には、一部を埋め立てる等の発想を考えた方がスペースも確保でき、様々なアイディアの検討ができるのではないか。今のところケース３に関しては、あまり賛成の方が少ないと思うが、近々の将来ではなく、もっと先を考えてみて、構想をふくらませては如何か。

事務局（光瀬）：今回、将来構想を策定するに当たって、宮津一帯を観光の目的地として進めていくのにケース１からケース３において、どの方法が良いか評価付けを行っていただいたところであり、その集計結果として、ケース２の既存施設を解体して新たな施設を整備する場合は一番多かったので、検討委員会としては、これを踏まえて構想案を策定するという事でイメージパースを作成している。

寺本委員：資料２の集計結果は、各委員の意見を出したものであり、これをもって、決定事項とするのは早いと思う。

事務局（光瀬）：将来構想の案を委員会の中で決定したということであり、今後は、パブリックコメントにより、市民の方からも意見をいただく予定である。

大瀬委員：資料2について、私も市外出身であり、天草に来て長くないため、あまり宮津地区について詳しくなく、前回のアンケートにおいて、ケース2を重点に点数を付けさせていただいたが、既存施設等をリニューアルして使うという視点もあるのかなと感じたところ。

また、海岸の所は海遊公園に設定されていて、観光客に周遊していただきたいということで作られていると思うので、そういったところも活用されていないように見受けられる。

他に、スパ・タラソ天草の展望所は、とても景色が良いと感じており、多少傷んでいるが、そういったところもリニューアルして、打ち出していく方法もあるのではないかと感じた。

事務局（光瀬）：施設のリニューアル関係については、市の方で公共施設のマネジメント管理計画を策定しているので、この構想と管理計画との整合性をどう図っていくのかというところを改めて検討する必要があると考えている。

また、動線の話が1回目の会議からあったと思うが、動線の課題を解決する施設間の連携方法については、我々で研究していく必要があると思っており、構想策定後には、整備計画あたりも順次展開できるように関係課との連携を図っていきたいと考えている。

（3）宮津地区将来構想（案）について（事務局）

※資料3に基づき説明。

何川委員：早期、短期、中長期で様々な施設が載っているが、これがそのまま出してしまうと特に私たち関係者は、新しく建て直してもらえるとすごく期待してしまうため、なるべく載せない方が良いと思う。私自身、このイメージ図を見て、少しは期待してしまうが、実際は財政状況が厳しいことも十分理解している。

また、ずっと宮津で商売をしていて感じたことは、緊急動線の確保は絶対必要だと感じる。パブリックコメントに緊急動線の確保を出すか否かは、皆さんの考えもあるかと思うが、土日渋滞している中でお客様も国道に出られず、救急車や消防車も全然進まないといった、そのような場面を見ていると命がかかっている状況からすると、少しでも早く出ていける道が必要だと思う。

古谷委員：この前も申し上げたと思うが、緊急車両の約95%はエムロードの交差点に出て出動するのがほとんど。この前検証をしたが、さんばー側から出ると交差点から出るのは、30秒から45秒程度、国道に出る時間が違った。消防の目的は、警察と一緒に、市民の安心安全を守ることであり、たかが30秒から45

秒しか違うと思われるかもしれないが、裏を返せば45秒早く現場に到着できるということ。今まで無事故で交差点まで行っていたのが不思議なくらいであり、渋滞しているなかを職員も気を利かせながら出動しているので、現場に着く前にだいぶ神経をすり減らすという現状になっている。様々な課題はあると思うが、私達が一番思うのは、出動の動線が変われば良いと思う。

事務局（光瀬）：何川委員や静谷委員が言われたように、イメージパースの中で個別具体的なものを出してしまうと、市民の方に誤解を招く恐れがあるため、我々もより市民の方に意見が出やすいような資料となるよう資料の修正を行う。

寺本委員：文言の修正について、施設等の名称については、正式名称で記載いただきたい。また、新大矢野図書館という表記もまだ名前が決まっていないと思うので、「仮称」の文字を入れるなどしていただきたい。

事務局（光瀬）：御指摘の箇所は、全て修正する。

福田委員：宮津地区将来構想のエリアは確定していると認識してよろしいか。全体を開発するのではなく、もう少しエリアを絞って開発してもいいのではないか。

事務局（光瀬）：市の施設や県の施設を囲った範囲が今回の構想のエリアとして提案させていただいているところであり、エリアに関しては構想案のとおりに行く予定。

4 その他（事務局）

事務局（松本）：将来構想案については、修正後、パブリックコメントを実施することとし、期間は、令和2年12月中旬から令和3年1月中旬までの1か月間を予定している。

寄せられた意見は、将来構想に反映できるか事務局で検討を重ねた上で、修正案を含めた最終の将来構想を令和3年2月9日の第4回検討委員会で委員の皆様にご確認いただくこととしている。

5 閉会（村田委員長）